

くりふ

Creative
Life
Information for
people

C・L・I・P

Vol.11
OCTOBER 2006

Topics

医療安全管理部

活動

医療安全管理報告会を
毎月開き、みんなで
情報を共有しています。

医療安全管理部 とは？

現場の事故を未然に防ぎ、患者さんの安全を守るためにはどうすればいいだろう。そのため

の活動に取り組んでいるのが、医療安全管理部です。ここでは、院内で起きた問題事例のデータ分析などを行うとともに、各部署・各職種の代表者からなる「医療安全管理委員会」を定期的に開催。事故につながりそうな事例の検証と対策を協議しています。さらに、それらの内容をまとめ、月に1度、全職員を対象とした「医療安全管理報告会」を開いています。この報告会では毎回平均120名ほどの出席があり、質疑応答も活発に行われています。

事故につながりそうな事例を検証し、 情報の共有と職種間の連携に努めています。

医療安全管理で大切なのは、職員みんなで情報を共有し、職種間の連携を深めることにあります。たとえば、問題事例を分析すると、職種間の確認漏れや組織の仕組みそのものに原因があるケースも見られます。こうした問題を解決するには、組織を横断した連携が欠かせません。また、他院や他部署で発生した問題を「明日は我が身」ととらえ、気持ちを引き締めることも重要です。当院ではこれからも、職員一人ひとりが高い安全意識をもって事故防止に取り組んでいきます。

医療安全管理 報告会



田島医院

信頼されるかかりつけ医として、 小児からご高齢者まで支えています。

田島医院は昭和16年開院。阪大病院で甲状腺、糖尿病などの内分泌疾患について臨床と研究をされていた現院長が、二代目として平成5年に継承されました。田島院長は日々の診療に携わる一方で、東住吉区医師会副会長として地域医療部、病診連携部など、6部門を担当。さらに、大阪府医師会高齢者対策委員会委員、大阪市介護認定審査会委員も兼任するなど、多様な立場で地域医療に貢献しています。

院長先生の メッセージ

当院は内科・小児科を標榜し、小さなお子さんからご高齢の方まで幅広い年齢の患者さんの診察にあたっています。子どもさんについては、桑津小学校校医、育和幼稚園・めばえ保育園園医を兼任し、定期健診や予防接種などを通じて、多くの児童・園児の健康管理に携わっています。一方、ご高齢の方については訪問診療を積極的に行い、寝たきりの患者さんとそのご家族を支えています。

診療において大切にしていることは、患者さんにご家族から信頼される「かかりつけ医」としての役割を果た

すことです。当院はこの地に開院して歴史も古いことから、三世代、四世代にわたっておつきあいのあるご家族も大勢おられます。そういった患者さんたちの信頼に応えられるよう、診察ではしっかりお話を聞いて、的確に診断するよう心がけています。その一方で、つねに医学誌を読んだり、勉強会に参加したりして、最新の医学知識を吸収することも欠かせません。私自身、医師会の活動をしている関係上、勉強会などの開催に携わる機会も多くあります。そんな機会を活かし、できるだけ多くの勉強会や講演会に参加するよう努めています。

また、こうした活動は、地域の病院・診療所の先生方と交流を深める上でも非常に役立っています。患者さんに病院を紹介する際も、「この疾患なら、



田島医院 院長
田島 幸兒 先生

この先生にお任せすれば大丈夫」という確信をもった上で、安心できる病院を紹介しています。これからは一つの診療所だけでなく、近隣の診療所や病院が協力して、地域全体で患者さんを支えていく時代です。当院でも信頼できる先生方としっかり連携し、在宅療養中の緊急時などにも速やかに対応していきたいと考えています。患者さんには、連携先の病院のことも含めて、どんなことでもお気軽に相談していただきたいと思います。

医療法人 田島医院の概要

- 診療科
内科／小児科
- 診察時間
AM： 9:00～12:00
PM： 17:00～19:00
日曜・祝日、木曜午後、土曜午後
休診。火曜午後は予防接種
(急患のみ診察)
- 住所
東住吉区西今川1-6-16
- TEL
06-6719-5502
- 交通
近鉄南大阪線「北田辺駅」より
徒歩約5分
(駐車場・駐輪場完備)



ふだんは、 かかりつけ医に。 いざというときは、**病院**へ。

田島医院の 紹介事例



長年にわたり
通院されている
60代女性が…

平成16年11月、
東住吉森本病院にて
胆のう摘出術

平成18年1月、
東住吉森本病院にて
大腸ガンの手術

この患者さんは、父の代から長年にわたって診ている方です。ふだんは糖尿病、高血圧、甲状腺機能低下症の治療で、2週間に1回程度、通っておられます。この方に初めて大きな病院へ紹介したのは、平成8年のことです。急性心筋梗塞を発症し、心臓病治療で信頼できる大阪市内の病院をご紹

介し、入院治療を受けていただきました。その後は大きな異変もなく順調に推移しましたが、平成16年11月、発熱と腹痛を訴えられ、来院されました。血液検査で胆道系の酵素が上昇していたため、胆石・胆のう炎を疑い、東住吉森本病院へ紹介しました。



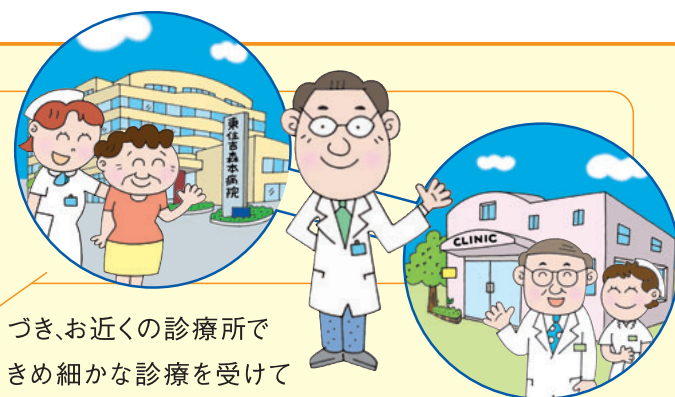
病院で検査の結果、見立て通り胆石・胆のう炎と診断され、開腹により胆のう摘出術を受けられました。術後は順調に回復し、再び、当院で持病の治療に取り組んでいました。

ところが、去年の暮れも押し迫った12月28日、「便をしたところ、赤い血が出た」ということで、来院されました。話を聞いたところ、「肛門部の痛みはない」ということです。これは、「痔ではなく、大腸ガンの疑いがある」と判断し、すぐ東住吉森本病院の消化器病センター宛てに紹介状を書いて、その足で病院へ行ってもらうことにしました。

病院にて内視鏡検査を受けたところ、やはり大腸ガンという診断。今年1月31日に低位前方切除術を受け、2月14日に退院されました。この方の場合、糖尿病に加え、急性心筋梗塞の既往があり、手術には慎重な配慮が必要です。その点、東住吉森本病院にはしっかりした循環器科もあり、信頼してお任せできます。患者さんの話でも「安心して治療を受けられた」ということでした。現在この方は、当院のほか、大阪市内の病院（心臓病のチェック）と東住吉森本病院（抗ガン剤治療）へ定期的に通っておられます。このように「ふだんは当院を利用し、数カ月に1度病院へ通う」患者さんのケースが増えています。それだけ病診連携が進み、病院と診療所の役割分担がはっきりしてきたように感じています。

お気軽にご相談ください。
信頼できる診療所を
ご紹介します！

あなたはもう、かかりつけ医をお持ちですか。ふだんの健康管理はかかりつけ医で、専門的な検査や入院が必要なときは東住吉森本病院をご利用いただけるように、当院では地域の診療所と連携して役割分担をすすめています。当院での治療が終わり、症状が安定した後は引きつ



づき、お近くの診療所できめ細かな診療を受けていただくことができます。かかりつけ医をお望みの方は、当院の主治医または総合案内までご相談ください。患者さんの症状やご要望に合った、信頼できるかかりつけ医をご紹介します。

放射線科のお医者さんに聞きました

医師が紹介する、画像診断



画像診断

って
なあに？

Teach 1



画 像診断とは、簡単に言うと体内の写真を取り、その画像から病気を見つけることです。昔からあるレントゲンは、皆さんもよくご存じでしょう。レントゲンで胸部を撮影する場合、多くても2枚程度の写真を撮って、体内の情報を得ました。それが技術の進歩とともに、CT（コンピュータ断層撮影）やMRI（磁気共鳴画像）検査が生まれ、今では一度に20枚以上の画像を撮るようになってきました。これら多くの断面画像から情報を得て、病気を発見するのが、今日の画像診断です。ちなみに、この「物体の断面を見る」という考え方は、18世紀初頭、フランスで出版された百科事典に掲載された「帆船の矢状断（前後方向の断面）」の絵にルーツを求めると言われています。

放射線科の 医師は何を するの？

Teach 2



放 射線科医は直接、患者さんと接する機会が少ないため、どんな仕事をしているのか知らない方も多かもしれません。しかし、放射線科医は各診療科と連携し、病気の早期治療のため日々努力しています。その仕事内容は、CTやMRI検査などで得た画像を見て、小さな病変も見逃さず診断すること。わかりやすく言うと、見ただけではわからない写真を「わかりやすい言葉」に翻訳して担当医に伝え、治療計画をサポートしています。たとえるなら、それは絵や写真などの美術作品を解説する仕事に似ているかもしれません。ただし放射線科医は美術評論家と違って、決して主観的にならず、医学的知識を根拠にして、つねに正確な診断を心がけています。

東住吉森本病院診療科のご案内

放射線科



放射線科部長 波多 信
からのメッセージ

●プロフィール／大阪医科大学出身。専門分野は画像診断学一般、胸部画像診断。日本医学放射線学会所属。日本医学放射線学会専門医。

CT、MRIなど各種検査を安全に行い、正確かつ迅速な画像診断によって、病気の早期発見を支えています。

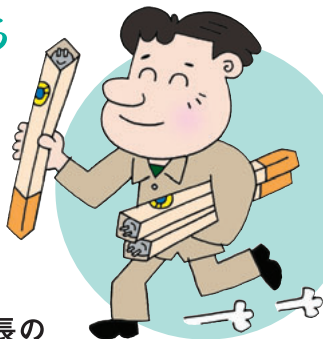
放射線科は専門医3名、検査技師15名の体制です。臨床各科および診療所の先生方の依頼に応え、一般撮影、CT、MRI、血管撮影など各種画像診断を迅速に行っています。とくに救急患者さんの緊急検査については24時間体制で速やかに対

応しています。また、画像診断技術を活用し、肝腫瘍や消化管出血の治療なども行っています。

検査においては医師と検査技師がしっかり連携し、安全第一を心がけ、すべての患者さんに安心して検査を受けていただいています。どんな病気も早期発見・早期治療が何よりも肝心です。気になる症状があれば、早めに検査を受けられることをおすすめします。

病院を支えるスタッフたち

新病院に移転して、新たに施設管理課が開設されました。ここでは課長と営繕担当者・石田康典の合計2名で、施設全体の維持管理や防災管理に取り組んでいます。その業務内容について、施設管理課・課長の西川 洋がご紹介します。



施設管理課

施設・備品の管理や防災管理に取り組み安全・快適な環境を維持しています。

施設全体の維持管理

電気、ガスなどの管理から備品の修理に至るまで幅広い業務を行っています

施設管理課の業務は実に多岐に渡ります。まず、電気・ガス・水道・地下水設備といったライフラインの維持管理、さらに、エレベーター・自動ドア・ボイラー・空調などの維持管理。そのほか、施設内の清掃や駐車場・駐輪場、敷地内の植栽管理まで幅広く目を光らせています。

日頃の業務の中心は、備品を含む施設内のさまざまな修繕です。たとえば、電球切れ・水漏れ・空調の不備…など、さまざまなトラブルに対応。即座に現場に駆けつけて状況を調べ、複雑な故障は専門業者に依頼するなどして、



できるだけ早く問題を解決できるように努めています。こうしたトラブルの連絡は、月に60～80件ほど。2名のスタッフが毎日、フル回転で業務にあたっています。

施設内の事故防止

施設に関わる事故や災害を決して起こさないよう万全の注意を払っています

管理業務で心がけているのは、「施設に関わる事故や災害を決して起こさない」ことです。デスクの後ろには防災受信盤があり、施設内で火気やガス、井戸水などのトラブルが発生した場合、直ちにその知らせが入ります。

それらの情報を丹念にチェックするとともに、防火設備の点検や防災訓練にも力を入れています。その一方で、ここで働く職員が快適に働ける環境を維持することも、つねに念頭においています。職員の働き



やすさはそのまま、より良い患者サービスにつながります。電球切れ一つにしても迅速に解決し、みんなが気持ちよく医療サービスを提供できるよう縁の下で支えています。

さらに今後は、患者さんのご要望も積極的に取り入れていきたいと考えています。施設の改善でお気づきの点があれば、どうぞお伝えください。

全員が自衛消防隊員として――

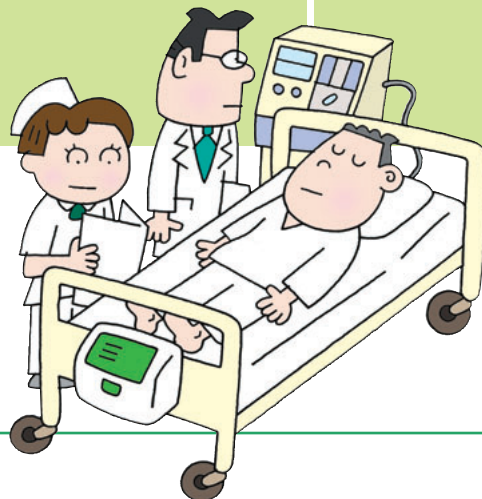
病院は「防火対象物」と定められ、消防署へ点検報告することが義務づけられています。そして万が一出火した場合は、消防車が到着するまでの間、全職員が自衛消防隊員となり、消火、避難、通報を行うことが求められています。当院でも、こうした消防署の指導にしたがい、全員が「自分の建物は、自分で守る」という自主性をもって防災管理に取り組んでいきたいと考えています。

医療環境の充実—— 東住吉森本病院の取り組み

[ICU (集中治療室)]

当院では救急搬送の増加に対応し、集中治療室のいっそうの拡充を図っています。こうした集中治療の取り組みについて、ICU部長・西田幸生からお話します。

※当院のICUは公的に認められた特定集中治療施設です。



重篤な患者さんをICUに収容し、 強力かつ集中的に治療・看護しています。

集中的な治療・看護により
効果的に病気を治療します。

集中治療室は、「内科系・外科系を問わず、重篤な患者さんを収容し、強力かつ集中的に治療・看護を行うことにより、効果的に病気を治療する」ところです。重篤な患者さんを一つの病棟に収容し、専門的チームによる集中的な医療の恩恵を受けられるよう、患者さんの安全性を追求したものです。

具体的には、以下のような状態の患者さんが対象となります。急性心筋梗塞、肺塞栓症、心筋炎などの急性循環不全や気管支喘息重積発作、重症肺炎などの急性呼吸不全などの患者さんです。また、敗血症性ショック、多臓器不全などの重篤な患者さんのほか、各種外科の大手術後の患者さんも対象になります。

近隣の病医院から、信頼される
集中治療部をめざして。

当院では平成14年6月に特定集中治療室を開設し、平成16年10月に新病院移転、平成18年4月に集中治療室を8床に増床し、現在に至っております。その間、設備面の強化を行い、人工呼吸器、大動脈内バルーンポンピング、経皮的心肺補助システム、持続血液濾過透析装置、血液浄化装置などをそろえております。スタッフは専従医2名、看護師19名です。

私は8月1日に着任しました。大学卒業後、麻酔科集中治療部を経て、



主として循環器内科にて診療に従事してまいりました。この経験をもとに、各診療科と連携してより良い医療を提供できるよう努力するつもりです。さらに地域医療支援病院の集中治療部として、近隣の病医院の先生方から信頼され、愛される集中治療部に育てていきたいと思っております。



ICU部長
西田 幸生

●プロフィール／福島県立医科大学出身。日本心血管インターベンション学会、日本内科学会、日本循環器学会所属。日本心血管インターベンション学会認定医。

みんなの健康 NEWS

テーマ

EPA (イコサペン酸エチル)

健康食品やサプリメントとしても知られるEPA (イコサペン酸エチル)。みなさんも一度は、その名前を耳にしたことがあるでしょう。EPAは、健康にいいと言われるオメガ3系の多価不飽和脂肪酸の一つ。脂肪というとダイエットの大敵と思いがちですが、不飽和脂肪酸はコレステロールを減らして血流を良くする働きがあるのです。

生活習慣病が気になる人に、青魚の料理をおすすめします。

EPAは、いわゆるドロドロ血を改善する有効成分。中性脂肪を減らすだけでなく、悪玉コレステロールを低下させ、血液を固まりにくくして、動脈硬化の進行防止に役立つと言われてています。

このEPAが多く含まれているのが、イワシなどの青魚です。日本人は元来、魚を好んで食べてきましたが、食生活の欧米化にともない、魚の摂取量が減ってきています。生活習慣病が気になる方はとくに、青魚を使った料理を積極的に食べることをおすすめします。料理法のコツは、刺し身やホイル焼きなどで脂を落とさないように工夫すること。また、体内での酸化を防ぐために、緑黄色野菜などと一緒に食べるといいでしょう。

■EPAの主な生理作用

- 中性脂肪を低下させる
- LDL (悪玉) コレステロールを低下させる
- 血液を固まりにくくして血流を良くする
- 血管の弾力を保つ



■EPAが多く含まれる魚とEPA含有量 (可食部100gあたり)

真鯛 (マイワシ) 丸干し	2,260mg
養殖はまち 生	1,545mg
身欠鰯 (ミガキニシン)	1,317mg
本鮪 (ホンマグロ) 生、脂身	1,288mg
真鯛 (マダイ) 養殖、生	1,085mg
目刺 (メザシ) 生	1,063mg
鰯 (ニシン) 生	989mg
鰯 (ブリ) 天然、生	899mg
鰻 (ウナギ) 生	742mg
柳葉魚 (シシャモ) 輸入生干し	720mg

※1食の魚料理は、70~80gぐらいが適当です。

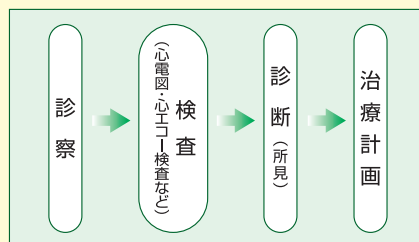
INFORMATION

「循環器科」外来診察室がリニューアル。
同じ場所で診察から検査まで行います。

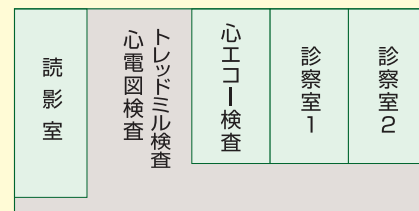
9月1日より循環器科の外来診察室が広いスペースに移動し、リニューアルしました。新しいスペースでは、診察室・検査室・読影室が1カ所にまとまり、同じ場所で「診察→検査→診断」を行うことができます。これによって、患者さんに離れた検査室へ移動してもらうことなく、速やかに受診していただけるようになりました。

ここで行う検査は、心電図、心・血管エコー、ABI・PWV (動脈の閉塞・硬化状況を診る検査)、トレッドミル検査 (歩きながら心電図を記録する検査) です。これらの検査結果は必要に応じて複数の医師で検討され、迅速な診断を行います。さらに詳しい検査が必要な場合は冠動脈CT検査なども加えて、正しく診断した上で治療計画を立てます。

■「循環器科」外来診察の流れ



■「循環器科」外来診察室



A 通り

もりもとだより

ゆったり過ごせる個室をご用意しています。

当院では入院病室として、多床室のほか、プライバシーが確保できる個室も数多くご用意しています。個室では、バス・トイレ、冷蔵庫といった生活設備をひととおり完備。入浴時間なども患者さん自身が決められますから、ふだんの生活のペースで、ゆったりと療養していただけます。

個室（特別室Bタイプ）の主な設備

- 電動ベッド
- 床頭台
- セイフティボックス
- 応接セット
- ユニットバス
（風呂・洗面台・シャワー・トイレ）
- 冷蔵庫
- テレビ（有料）
- 電話（有料）



室料／1日 10,500円（税込）

※このほか、より充実した設備をそろえた特別室Aタイプもあります。



医療法人 橘会
東住吉森本病院

〒546-0014
大阪市東住吉区鷹合3丁目2番66号
06-6606-0010（代）
<http://www.age.ne.jp/x/thm-hp/>

交通アクセス

- 電車・バスで
・JR阪和線・地下鉄御堂筋線「長居駅」より市バスで「長居公園南口」下車すぐ
・近鉄南大阪線「針中野駅」又は「矢田駅」より徒歩12分
- 車で
・長居公園通りの長居公園東交差点を北へすぐ